

I. 研究主題

地域との連携と教員の働き方について
～コミュニティ・スクールを通して～

丸亀市立岡田小学校 教頭 中田 善司

II. 研究の目的

昨年度の実践研究では、統合された中学校が地域の中心的役割を果たし、保護者や地域の人間関係の広がりにつなげることの必要性、また、教員が計画的に業務を行い、生徒と触れ合う時間を確保することなど、教員の働き方を見直す必要性を明らかにしてきた。

今年度の人事異動により、以前からコミュニティ・スクールに取り組んでいる小学校勤務となった。保護者や地域との連携が充実している学校において、教員の働き方について考察することで、コミュニティ・スクールや教員の働き方改革を学校経営にどう生かすことができるのか考えられる。

III. 研究の方法

学校運営協議会の委員を、PTA会長、保育園園長、地域のコミュニティセンターや地域学校協働本部の役割をする子ども未来部の役員に依頼をしている。コミュニティ・スクールの活動の中から保護者や地域、学校と教職員の連携について考察を行い、どのように地域との連携や教職員の働き方を行っていくのかを明確にする。

IV. 結果と考察

学校運営協議会で検討された内容や学校の様子は、地域のコミュニティセンターだよりを通じて地域に伝えられたり、コミュニティセンター内にある子ども未来部（地域学校協働本部）が中心となって学校への協力要請を行ったりして学校と地域が連携して学校経営が行われている。

1 学校と地域との連携**① 地域から学校へ****ア ボランティア活動**

- ・ 新入生見守り（4月）
- ・ あいさつ運動（毎月）
- ・ 花の植え替え（学期に1回）
- ・ 校内の除草作業（運動場）

イ 地域の人材活用

- ・ クラブ活動（茶道・大正琴・郷土）
- ・ 防災学習
- ・ 平和学習
- ・ 授業（家庭科・総合学習等）

② 学校から地域へ**ア クラブ活動**

- ・ 地域のイベントへの参加

イ PTA活動

- ・ 地域のイベントへの協力

③ 学校と地域がともに**ア 文化事業**

- ・ 親子料理教室

ボランティア活動として地域からの協力が得られることで、複数教科の教材研究を毎日行わなくてはならない学級担任の教員にとっては、児童と向き合う時間が確保できたり、栽培などの専門的な知識や技能を習得できたりして負担を軽減することができている。多くの地域の人が見守る中で、新入生が安心して学校生活を始めることができたり、挨拶が苦手な児童が次第に大きな声でできたりするなど児童にとっての利点が多く見られる。

児童や保護者がコミュニティセンターの主催した地域のイベントや文化事業に参加することは、地域のよさを再発見したり、人間関係の広がりにつながったりするよい機会になり学校や地域の活性化が図れる。

このようにコミュニティ・スクールによって保護者や地域と連携することは、教員にとっても児童にとっても多くの良い点が見られ、学校経営を行う上で有効な手段だと考えられる。地域の中で生活している児童にとっては、地域との連携は必要不可欠なものであることが分かった。また、学校と地域が連携を図るためには、子ども未来部（地域学校協働本部）と学校の担当者が報告・連絡・相談を密に行って協力体制をつくることが重要であることが分かった。

V 今後の課題

地域を教材とした学習を行っている小学校だけではなく、これからの学校の学校経営には地域との連携・協力が児童・生徒のためだけでなく、教員のためにも必要不可欠なものとなっている。地域学校協働本部と学校がうまく連携するためには、学校の担当者となっている教員（多くは教頭）が地域と教員の間で架け橋となつてうまく調整する必要がある、連絡を密に行うなど学校と地域の調整の仕方が今後の課題であると考えられる。